

授業の英語化に役立つ3つのポイント

—「無理せず」「ゲーム感覚で」「お任せスタイル」—

大学における国際化の一環として、授業の英語化推進が求められており、名古屋工業大学でも、中期目標・中期計画において大学院授業の英語化推進を明記しています。一方で、授業の英語化には、教員側に高い心理的ハードルがあることも否めません。授業の英語化自体を自己目的化することなく、講義内容の充実につなげるためには、どのように取り組めばよいのでしょうか。今回、日米での教育経験が豊富な講師に、授業の英語化を無理なく進めていけるポイントを伝授していただきます。一步を踏み出すきっかけになれば幸いです。



日時 **7月8日** 金 15:00~16:30

会場 **3号館2階 0322講義室**

プログラム

- **開会あいさつ** 森 秀樹 工学教育総合センター長
- **趣旨説明・講師紹介** 永井正司 工学教育総合センター教授
- 15:10-16:20
講演「授業の英語化と日米における私の教育経験」
岐阜大学 地域科学部 准教授 牧 秀樹氏
- 16:20-16:30
授業の英語化に関する支援体制について
永井正司、Joseph Essertier、Kelly Quinn、Brian Cullen

講師紹介

牧 秀樹氏

愛知県出身で、東京大学大学院(修士、英語学)、コネチカット大学大学院(博士、言語学)を経て、8年に亘り米国の大学で教鞭を執る。その後帰国し、岐阜大学地域科学部准教授。実践的な日英語使用のアドバイス等に長け、現在の指導学生は全て海外からの留学生。授業評価は、勤務校でトップ5に入る。

**入場
無料**